

平成29年度 第2回ひきこもり支援等検討委員会 会議録

■日 時：平成29年7月25日（火）14：30～16：00

■場 所：総社市総合福祉センター 2階 教養研修室

■参加者

【委員】安本 美喜男（総社市民生委員児童委員協議会）・山本 繁（総社市福祉委員協議会）・安部 久仁子（総社市地域自立支援協議会）・西田 和弘（総社市生活困窮支援センター協議会）・中山 遼（NPO法人 あかね）・藤井 基弘（藤井クリニック）・平野 悦子（総社市保健福祉部）・新谷 秀樹（総社市保健福祉部 福祉課）・林 直方（総社市保健福祉部 長寿介護課）・北川 和美（総社市教育委員会 学校教育課）・吉田 哲也（倉敷中央公共職業安定所 総社出張所）・佐野 裕二（総社市社会福祉協議会）・直島 克樹（川崎医療福祉大学 医療福祉学科）

※ 欠席（内田 和弘・三上 啓子・渡邊 節夫・田頭 羊子・周防 美智子）

【オブザーバー】吉田 光臣（岡山県社会福祉協議会 地域福祉部）

【事務局】横田 優子（総社市保健福祉部 福祉課）・中井 俊雄・佐々木 恵・高瀬 智早（総社市社会福祉協議会 ひきこもり支援センター）（敬称略）

■開 会：西田委員長 あいさつ

日曜日の開設記念フォーラムはお疲れさまでした。おそらく成功だったのではないかと。本日もスピーディーに審議していきたい。

■報告事項

●総社市ひきこもり支援センター開設記念フォーラムについて
（事務局）

◆当日のフォーラムについて

当日のフォーラムには総勢約200名の方が参加された。アンケート集計は資料参照。当事者4名、民生委員7名、福祉委員9名、医療・福祉機関2名、行政・社協20名、学生8名他の参加であった。

はじめに、基調講演で池上氏に『引きこもり』の理由、社会的背景、そして苦悩・・・「～ひきこもり」というテーマでご講演いただいた。その中には、池上氏自身のひきこもりであった経緯などもお話しいただき、小学校時代の場面緘黙症、全緘黙症という理由でコミュニケーションがなかなかとれなかったという内容もあった。当事者からの相談内容の事例や全国の先行事例や実態調査、またピアサポートの重要性、当事者への関わり方、地域の取り組みや関わり方についてお話しいただいた。

その後、西田委員長より、経過報告で「総社市での『ひきこもり支援』の取り組み」についてお話しいただいた。

その後、西田委員長の座長の下、池上氏、川上氏、センター長中井の4者で「なぜ？いま、ひきこもり支援なのか？」というテーマで、座談会でざくばらんに話していただき、

その中では、「全国の先行事例を参考にしつつ総社らしい、総社ならではの仕組み作りが必要」、「サービスがニーズを掘り起こすように独自の多様なメニューを作っていくことが必要」、「当事者が自己決定で選択できるメニュー作成をしていかないといけない」というアドバイスをいただいた。3 ページには参加者の感想も掲示している。

◆ひきこもりサポーター企画「居場所カフェ」について

フォーラムと同時刻に、ひきこもりサポーター企画で2階の技能習得室で「居場所カフェ」を開催した。当日参加される当事者のための休憩場所としても提供するほか、「居場所カフェ」への感想を出してもらい、今後の居場所運営に活かしていく目的で開催した。

サポーター8名に参加していただき、来場者の中には当事者3名、家族3名の参加があった。サポーターが当事者の話を聞いたり、一緒にゲームをしたり、好きな絵をかいたりなどして時間を過ごしていた。ひきこもりの子どもがいる家族のご相談を聞くときには、サポーターが少し離れた場所で、1対1で対応している。当事者の方からも概ね良かったとの感想をいただいている。

(平野副委員長) 居場所カフェは、サポーターの手ごたえはどうだったのか。

(高瀬) サポーターとの振り返りは8月の定例ミーティングでする予定だが、サポーター自身も楽しそうにされており、みんなの手ごたえになっていたのではないかなと思う。

(平野副委員長) 参加した当事者には前もってチラシなどで広報していたのか？

(高瀬) 一人はセンターを利用している方に声をかけた。他の2名はチラシを見られて参加された。

(平野副委員長) どこかの何かのチャンスで参加したいと思って突破口をとっている人がいるんだと一人でも感じる事が出来れば、居場所が早く実現できれば良いなと思った。

●ひきこもり支援センター「ワンタッチ」の実績について

(事務局)

- ◆ 4月11日の開所以降、実相談者数は、50名に上っている。内訳は男性38名、女性11名、不明が1名。延べ相談件数は、6月末で303件、内訳は訪問83件、来所84件、電話109件、e-mail27件になっている。
- ◆ 実際の取り組みとして、実際に体力づくりや社会参加として、施設でボランティア体験をしたり、地域の行事へ参加してはどうかなどの促しをしている。農業体験でジャガイモの収穫などしている。
- ◆ 具体的な相談状況だが、7ページから10ページまで掲載しているが、ここ最近では、2年間かけて実態調査をした207名のうちの3名である。このケースに関しては、地域包括と同行訪問予定である。
- ◆ 生活困窮支援センターが実施している学習支援のワンステップに参加できているが実際には中学校は不登校であるという子どもの相談を受けている。

(西田委員長) 生活困窮のワンステップと連携しているケースは、教育委員会とは連携しているのか。

(事務局) 教育委員会とも相談し、ひきこもり支援員がワンステップのスタッフとして参加しており、なかなか本人にはまだ会えていない状況。なお、ワンステップにはちら

- ほら不登校の子がいる状況であり、ワンステップとの連携の重要性を感じている。
- (西田委員長) ワンステップに参加しているだけでは出席日数にカウントしてもらえないと思う。ふれあい教室につなげていけば、出席日数にカウントできる。早めに教育委員会と連携してふれあい教室につなげてほしい。
- (佐野委員) ワンタッチの今年度の目標が50人の方と出会うということだったが、もうすでに50人達している。予想外に当事者と出会うことができているかなと思う。ただ実際に継続的に支援をしている方はそんなに多くないが、このままいくとたくさんの方と支援につながるのではないかという意味で、支援が行き届いていくのかなという不安もある。予想外に相談数が多いなと感じている。
- (西田委員長) 50件のうち、1割は他市からの相談だが、総社の財源で考えるとどうかと思うが、他市だからと言って電話を切るわけにもいかない。全面的な支援は難しいかもしれないが、ある程度は対応していったら、逆に県に財源をお願いするような材料に使えばよいと思う。
- (平野副委員長) ひきこもりというと現場に近いところに相談先がある方が相談しやすいと思うので、全県的にできるかというとなかなか難しいので、後押しする機関であって欲しいなと思う。昨日、県の方と話をした。
- (西田委員長) 倉敷や他市はひきこもりに対応できる機関が実際ないからこうやって相談にきていると思う。ある程度は、ワンタッチでも対応するが県の方も財源支援をお願いしたいところだ。
- (佐野委員) また、他市町村にもひきこもりセンターを作るような動きができれば良いと思う。フォーラムの参加者にもそういう期待する声があった。
- (西田委員長) 総社市がしっかりやってリーダーシップをとっていければと思う。

●第1回支援者養成ワーキンググループについて

周防委員長が欠席のため、副委員長の佐野委員から報告
11ページ参照。

- ◆ ひきこもりサポーター養成講座について検討した。昨年度は38名受講し、そのうち17名の登録があった。検討した結果、昨年度の内容を継承した形で開催する。
- ◆ ピアサポーター養成講座は、相談者の実情が見えてから具体的な内容を検討していきたい。

●ひきこもりサポーターフォローアップ研修（定例ミーティング）について
（事務局）

- ・ 6月28日（水）にフリースペースあかねの見学研修を実施。この研修で得た知識等が活かされていた。
- ・ 定例ミーティングは現在3回開催。意見交換の結果から、フォローアップ研修やレクリエーションが実現している。

■協議事項

●会議録の承認について（平成 29 年 5 月 11 日開催分）

- ・ 意見があれば、7 月 28 日（金）までに事務局まで連絡をし、異論がなければ自動承認。内容の変更があれば、次回再度確認をする。

●事業計画の修正案について

- ・ 前回の委員会で、新谷委員から事業計画に周知広報活動を盛り込むべきだという意見が出た。
- ・ 事業計画に周知啓発活動という項目を追加した修正版を承認。

●ひきこもりサポーター養成講座の開催について

（事務局）24 ページ参照

- ◆40 名の養成を目標に、昨年度の内容に加え、講義を 1 回増やして実施する。

（西田委員長）佐野ワーキング副委員長からの報告であった、ひきこもりサポーター養成講座を初級編として、段階的にサポーターを養成していくという発言があったが、もう少し詳しく説明をお願いしたい。

（佐野委員）サポーター養成講座は知ることや、自分に何ができるかを考える場にし、そこから次にご本人に寄り添っていける立場になると名前を変えてもいいのではないかと考えている。当事者にも同じようにサポーター養成講座を受けて自分のことを見つめて、ピアサポーターになっていただく。それから更に相談にのれるような立場になれる流れを作っていく。

（西田委員長）ワーキングで今後議論を深め、改めて委員で議論していきたい。段階構造で養成を進めることについて異論はないか。

（平野副委員長）異論はないが、先日の居場所カフェを見て、居場所のシフトを組もうと思うと、ある程度同じ気持ちというか、サポーター養成を受けたからと言って完全にできるわけではない。最初はサポーター養成講座を受けた人から、洗練されてくれて残ってくる人がいると思うが、かなり荷重がいつている気がする。

（中山委員）あかねでも常にボランティアを募集していて、希望で来る人は多いが、その中、継続してボランティアをする方が半分ぐらい。みんな目的を持っているのでそこをどう見つけるかということだと思う。当事者の方は自分の体験と向き合いながら、自分の体験を活かしたいという気持ちがあるので、そこが動機になる。そうではない方は別の動機があるので、何事も継続していくには動機や目的意識がいる。ピアとサポーターの 2 本柱はありかなと思う。

（西田委員長）ステップアップや二本柱でという絵を描くにしても、こういう方法をとった場合にこういう課題があるということも検討しておいてほしい。

●今後のスケジュール等について

（事務局）

- ◆市の予算要望時期が 1 ヶ月前倒しになる。従来だと 11 月の委員会でなんとか間に合うが、次回が 9 月で委員会を開催し、その時点で来年度の事業計画、予算を確定していけないといけない。事業が始まったばかりで実績がお示しできていないが、すで

に次年度の計画をたてていかないといけない。次回、事業計画案を提示する予定。

- ◆本資料の26ページ参照。就労創出ワーキングについて。なかなか就労に結びつく対象者が限定される。今の段階、就労創出のワーキングを立ち上げると、なかなか事例として提供できる内容がまだまだない。少し様子を見ながらご提案させていただく。構成メンバーは掲載している方にご依頼していきたい。

(西田委員長) 構成メンバーの内諾をいただけるのであれば、このような構成メンバーでワーキングを開催することにご承認いただけるか。

(委員)

承認。

●居場所の設置について

(事務局) 事例提供

- ◆サポーターと一緒に事例をとおして居場所を考えている。具体的に居場所をイメージするためにあかねを見学した。次にどこでどんなふうにやろうかとした時にあまりにも理想的な居場所を作ったとしても、なかなかそこに人がきてもらえないのではないかという議論になり、むしろセンターで関わっている50の事例の中から居場所に来てもらえそうな方をピックアップして、その方々に応じた居場所という形で試行的にしてみてもどうかと話し合っている。一旦、建物の借上げをしてしまうと恒久的にそこを借りていかなければいけないのかとなってしまうので、例えば公共機関を一時的に借りて試行を繰り返しながら、失敗を繰り返しながら、よりよい居場所にするためにはどうしたら良いか、ノウハウの蓄積をしていきたい。

◆事例紹介(別紙参照)

- ・事例①は、今回の本資料7ページのNO.6の事例。友達や居場所が欲しいという方。色々な居場所の見学をしたが、なかなか本人にあった居場所が見つかっていない。今回、フォーラムの際に居場所カフェでサポーターとアニメの内容で会話が出来る。
 - ・事例②は、7ページのNO.14の事例。父親がかかっている医療機関からの相談。ダイエットして痩せたいという希望があり、毎日ジムに行き減量に成功している。血圧も安定している。人間関係がうまく築けず、転職を繰り返し3年前に離職してからは、無職。本人、何か活躍したい。父親も役に立ってほしいという気持ちがあり、夕方1時間程度の窓ふきを週2回ボランティアで行っている。そのために自転車を修理し、自転車に乗る練習を一緒に行った。自宅にいたら家族と会話がないのでもっと出ていける場が欲しいと希望。
 - ・事例③は、10ページのNO.40の事例。本人からホームページを見て相談。家では農作業をしているが、農業とは別に就職したい。すぐに就職したいが、対人緊張が強いのでボランティアで慣れていくことを提案。高齢者施設で清掃のボランティアを行っている。
- ◆50事例中、本人と対面で会えているのは7事例。居場所に興味を持ち、利用ができてそうな人に向けて試行的に始めていく。

(西田委員長) スケジュールを見ると、今年いっぱい試行的に居場所を行って、2月以降に

常設の居場所を設置するということになるが、どういう居場所にするかまずは試行錯誤していく。まずは、今、関わりが持てている方に向けてどういう居場所にするかを考えていく。我々がこういう居場所がいいだろうと考えても当事者が望むものにフィットしない可能性があるので、当事者の意見を聞きながら形を作っていくというのが事務局の提案。

(平野副委員長) 終着点がどこになるのかが気になる。ケースバイケースだが、事例②の方が今のボランティア先に毎日行っておしゃべりするようになると、施設側から止めてほしいと言われるかもしれない。本人は施設を気に入っているが、どこかで軌道修正をしないと、施設からおしゃべりに来るのは駄目だと言われたときに、またそれがきっかけでひきこもりにならないか。

(事務局) 施設に関しては、市内の社会福祉法人が社会貢献活動をしようという流れの中で、引き受けてもらっている。施設としても、ひきこもりの方を受け入れて、ゆくゆくは就労ということも視野に入れているが、すぐにフルタイムで行けるようにはならないので、居場所とボランティア等を並行して利用していただくのが良いと思っている。事例②の方も③の方も、社会に目が向いて関わり始めたところで、つまづかないようなフォローも必要だと思う。相談支援はセンターでしていく。出かける場所として、ボランティアだけでなく居場所のようなところに定期的にかかわってもらおう。そういったところが複数個所に増えていけばいいが、いきなり複数個所や日程もできないが、1つの手段として居場所が考えられる。

(平野副委員長) 施設の方に見通しを伝える必要があるのではないかな。いつまで支援をするのか。施設にも本来の仕事があるので、迷惑になってしまわないか。

(佐野委員) それは必要だと思う。以前、生活困窮で関わった方がボランティアをしたときは、毎月本人と施設の職員と社協の担当者で振り返りをして一緒に支援計画を立てていた。今、ボランティアをしている方々についても、施設の方と一緒に確認をしながら次のステップを考える仕組みが必要だと思う。

(西田委員長) 今、ボランティアに行っている方は支援計画を作っているのか。

(佐々木) ボランティア活動記録を作成して、毎月の振り返りができるようなシートを作っている。日々の業務記録をつける日誌も作成している。

(西田委員長) ひきこもりの方の場合は、まず日常生活が普通にできるようにというのが最初の出発で、その後就労準備をして、中間就労から一般就労へいくという段階的なステップアップのイメージを、関わっている人全員で共有して支援していく必要がある。居場所も、ボランティア等に行っているも他の日に行くところが無い、家族といっても喧嘩になるといった人の避難場所のように使う人もいると思うし、就労は先だが毎日家から出るための行き場所として使う人もいると思う。まずは、関わっている方々の意見をベースに形を作って、それから発展させていき、常設の居場所を借り上げる。

(中山委員) 事例の中にも書いてあるが、まず居場所、家から出て何もなくてもいい場所があることが大事なケースと、何かができることが大事なケースがある。居場所カフェの配置はすごく良いと思った。体を動かすことができたり、調理ができたりなどのスペースができれば、いま相談が入っている事例などに対応できるのではないかな。これらのヒントがいきてくる。

(西田委員長) 居場所のワーキングはなかったのですが、事務局で色々考えるよりも、中山委員などに入ってもらって考えた方が良いのではないかと。

(山本委員) 先日あかねを見学させてもらったが、一人になれる部屋、ゲームができる部屋など部屋ごとにわかれているスペースがあり、良いアイデアだと思った。やはりニーズに合った部屋を作ってあげることが大切だと感じ、そこから次にステップしてすすんでいくということが必要であると思う。

(平野委員) 農業する場所や、それぞれの居場所を作っていくことが、人が来てもらえるような場所を作っていくことが必要。スタッフが限られているので、どこまでやっていけるのかなと心配。

(西田委員長) ワーキングが乱立しても仕方ないので、居場所については考えないといけないうことが多いため、ワーキングとまではいかななくても1回か2回は懇談会を開いても良いかもしれない。意見交換会を開いてもいいのではないかと。

(事務局) 現状では、サポーターの方とやり取りをしていて、山本委員には中心に担っていただいているので、そこを拡大して、中山委員や直島委員に入っていただいて適正な居場所は、総社でやっていくのなら、といった考える機会を持っても良いのかなと思う。

(西田委員長) 支援者養成のところではサポーターと一緒に考えてはいるけれど、1、2回は拡大という形でメンバーを増やしてお知恵をいただくという取り組みをしてもらいたい。

■その他

(事務局) 次回の日程調整をしたい。9月には1回開催したい。予定をお聞きして、19日午前・午後、20日午前の3区分で会場等の都合もありますので確認して実施したい。

■閉会：あいさつ

(平野委員) フォーラムで副市長が、池上さんはひきこもりだったのにここまで社会に出れるなんてすごいなと感心して、最初は挨拶だけと思っていたが、最後まで話を聞かされていた。この前の会は成功に終わったのかなと思う。難しいながらも、数年前よりも変わってきた気がする。ひきこもりの方がお一人でも出てこれたら嬉しい。ひとりよがりにならず、そのためにも会で協議かできたらと思う。